



プレスリリース

平成23年6月28日
内閣府
原子力政策担当室

アジア原子力協力フォーラム(FNCA) 「原子力発電のための基盤整備に向けた取組に関する検討パネル」 第3回会合開催について

○内閣府及び原子力委員会は、インドネシア原子力庁(BATAN)と共同で、7月5日(火)～6日(水)にインドネシア・ジャカルタ(ホテル サリ パン パシフィック)にて「**原子力発電のための基盤整備に向けた取組に関する検討パネル**」第3回会合を開催いたします。

○FNCAとは、我が国主導でアジア地域の原子力技術の平和的で安全な利用を進めるための協力フォーラムです。(ホームページ: <http://www.fnca.mext.go.jp/>)。FNCAでは、近年のアジアにおける原子力発電導入の動きを受け、2004年より、地域における原子力発電の役割や原子力発電の推進に関する協力について検討するパネルを開催してきました(第1フェーズ:3年間、第2フェーズ:2年間)。2009年からは、原子力発電向け基盤整備について検討する第3フェーズ(3年間)を開始し、第1回会合では、原子力発電導入初期の全般にわたって、成功や失敗事例を含む実際の経験に基づく教訓を日本、中国、及び韓国から紹介し、メンバー国間で共有されました。第2回会合では、①プロジェクトマネジメント、②現地業者育成及び調達、及び③核燃料サイクルと放射性廃棄物処分等の、原子力プラント導入初期段階に十分に検討しておくべき基盤整備の重点課題について、日中韓の実経験から得られた知見を紹介し各国及び国際協力の取組にどのように生かすか議論を行いました。

○今次会合においては、今年3月11日の東北地方太平洋沖地震・津波で起こった福島第一原子力発電所の事故を受け、事故の情報共有とそこから学んだ知見や教訓について共有します。またアジア地域における原子力安全の強化対策について議論を行います。また、地震・津波に対する日中韓の安全対策についての現状紹介や今後の在り方について情報交換を行います。

1. 主催 内閣府、原子力委員会、インドネシア原子力庁(BATAN)
2. 開催日時 平成23年7月5日(火)～6日(水)
3. 開催場所 インドネシア・ジャカルタ(ホテル サリ パン パシフィック)
4. 参加予定国及び機関
オーストラリア、バングラデシュ、中国、インドネシア、日本、カザフスタン、韓国、マレーシア、モンゴル、フィリピン、タイ、ベトナムの全12か国及びIAEA(国際原子

力機関)

※日本からは尾本彰原子力委員会委員(本パネル会合の議長)、町末男FNCA日本コーディネータ等が出席する予定。

5. 報道関係者の傍聴及び取材

報道関係者の傍聴及び取材は7月5日(火)の開会セッションおよび記者会見(9:00~9:40)のみ可能です。傍聴や取材、カメラ撮り等を希望される報道関係者は、傍聴席確保の必要上、開催前(6月30日(木))までに、以下の問い合わせ先にご氏名、ご所属及びご連絡先をご登録下さい。

なお、傍聴は1社につき原則1名(撮影のために入場する報道関係者は除く。)とし、会議室への入室の際には、登録された本人であることが確認できるものを提示していただくとともに、社名入り腕章を着用して下さい。

[傍聴時の現地受付:ホテル サリ パン パシフィック FNCA 事務局受付]

(問い合わせ先)

内閣府政策統括官(科学技術政策・イノベーション担当)付 原子力担当
朝岡、濱田、西村

電話:03-3581-6690(直通)

03-5253-2111(内線44647)

FAX:03-3581-9828

(別添1)

アジア原子力協力フォーラム(FNCA)
「原子力発電のための基盤整備に向けた取組に関する検討パネル」
第3回会合プログラム案

日 時：平成23年7月5日(火)－6日(水)
場 所：インドネシア・ジャカルタ(ホテル サリ パン パシフィック)
主 催：内閣府、原子力委員会、インドネシア原子力庁(BATAN)

平成23年7月5日(火)

プレスオープン部分

セッション1：開会セッション

1. 開会挨拶 (Dr. Hudi HASTOWA インドネシア原子力庁(BATAN) 長官)
 2. 歓迎挨拶 (尾本 彰 日本・原子力委員会委員)
 3. 各国参加者紹介
 4. 記念撮影 等
- (記者会見)

セッション2：福島第一原子力発電所事故

セッション3：アジアにおける原子力安全の強化方法について

セッション4：利害関係者の関与

- ・福島事故後の一般市民の意見の変化に関する分析
- ・一般市民へ説明にあたってのポイント

セッション5：原子力発電における人材育成

平成23年7月6日(水)

セッション6：福島事故後の原子力計画(日中韓)

セッション7：原子力発電所の新規導入の状況(各国報告)

セッション8：福島第一原子力発電所事故の環境への影響

セッション9：中止された第12回コーディネータ会合の議題のフォローアップ

セッション10：今後のパネル会合計画について

セッション11：今次パネル会合総括と第12回大臣級会合向け報告ドラフト

セッション12：閉会セッション

*：各国等との調整により、プログラムを変更することがあります。

(別添2)

アジア原子力協力フォーラム(FNCA)
「原子力発電のための基盤整備に向けた取組に関する検討パネル」
第3回会合
参加者(予定)一覧

【海外出席者】

1) オーストラリア

- ・ Dr. Ron HUTCHINGS (ロン・ハッチングス)
オーストラリア原子力科学技術機構 (ANSTO)
専務理事 (戦略、政府・国際関係)

2) バングラデシュ

- ・ Mr. Dilip Kumar BASAK (ディリップ・クマール・バサク)
バングラデシュ科学・情報・コミュニケーション省 審議官
- ・ Dr. Md. Muzammel HAQUE (モハマド・ムザメル・ハケ)
バングラデシュ原子力委員会 (BAEC) 委員長

3) 中国

- ・ Mr. FENG Yi (フェン・イー)
中国核能行業協会 (CNEA) 副事務局長
- ・ Mr. XU Zhi Xiong (シュ・チーシヨン)
中国国家原子能機構 (CAEA) 国際協力部課長補佐

4) インドネシア

- ・ Dr. Hudi HASTOWA (フディ・ハストウオ)
インドネシア原子力庁 (BATAN) 長官
- ・ Dr. Taswanda TARYO (タスワンダ・タリヨ)
インドネシア原子力庁 (BATAN) 次官 (研究開発研究成果利用・原子力科学技術広報担当)
- ・ Mr. SRIYANA (スリヤナ)
インドネシア原子力庁 (BATAN) 原子力発電マネジメント準備課 課長

5) カザフスタン

- ・ Dr. Erlan G. BATYRBEKOV (エルラン・G・バティルベコフ)
カザフスタン国立原子力研究所 (NNC) 第一副所長
- ・ Dr. Kuralbay BUKHARBAYEV (クラルバイ・ブハルバーイエフ)
カザフスタン産業・新技術省大臣アドバイザー

6) 韓国

- ・ Mr. CHOI Doo Yong (チェ・ドヨン)
韓国教育科学技術部 (MEST) 原子力局 原子力協力課長代理
- ・ Dr. CHUNG Dae Wook (チョン・デウク)

- 韓国原子力安全技術院 (KINS) 研究プロジェクトマネジャー (PSA 担当)
- ・ Mr. JEONG Honghwa (チョン・ホンファ)
韓国原子力国際協力財団 (KONICOF) 専門家

7) マレーシア

- ・ Dr. Muhd Noor MUHD YUNUS (モハメド・ノール・モハメド・ユナス)
マレーシア原子力庁 (Nuclear Malaysia) 副長官 (技術担当)
- ・ Ms. Azlina MOHAMMAD JAIS (アズリナ・モハメド・ジャイス)
マレーシア原子力規制委員会 原子力施設課長

8) モンゴル

- ・ Mr. Manlaijav GUN-AAJAV (マンライジャフ・ガンアジャフ)
モンゴル原子力庁 (NEA) 原子力技術部長
- ・ Ms. Erdev BATJARGAL (エルデブ・バトジャガル)
モンゴル原子力庁 (NEA) 原子力技術革新部 部長

9) フィリピン

- ・ Dr. Alumanda M. DELA ROSA (アルマンダ・M・デラ・ローサ)
フィリピン原子力研究所 (PNRI) 所長

10) タイ

- ・ Mr. Sakda CHAROEN (サクダ・チャロエン)
タイ原子力技術研究所 (TINT) 副所長
- ・ Mr. Samerjai SUKSUMEK (サメルジャイ・スクスメック)
タイエネルギー省 エネルギー政策計画局 電力政策部部長
- ・ Ms. Kanchalika DECHATES (カンチャリカ・デチャテス)
タイ原子力技術研究所 (TINT) 国際協力課 課長

11) ベトナム

- ・ Ms. HOANG Thi Nhung (ホアン・チー・ヌン)
ベトナム原子力研究所 (VINATOM) 国際協力部 部長代理
- ・ Mr. PHAN Ngoc Tuyen (ファン・ゴック・チュエン)
エネルギー研究所 火力原子力発電・環境コンサルティングセンター 副所長

12) IAEA (国際原子力機関)

- ・ Mr. Yoshimitsu FUKUSHIMA (フクシマ・ヨシミツ)
国際地震安全センター、上級安全検査官

【国内出席者】

- ・ 尾本 彰
原子力委員会委員
- ・ 町 末男
FNCA 日本コーディネーター (元原子力委員会委員)
- ・ 蛭澤 勝三
独立行政法人原子力安全基盤機構 総括参事

- ・ 中川 政樹
独立行政法人原子力安全基盤機構 国際室新規導入国安全支援センター長
- ・ 杉浦 紳之
近畿大学原子力研究所教授

○調整により、出席者が変更されることがあります。

(別添3)

アジア原子力協力フォーラム (FNCA : Forum for Nuclear Cooperation in Asia) の概要

1. 概要及び目的

積極的な地域のパートナーシップを通して、原子力技術の平和的で安全な利用を進め、社会・経済的発展を促進することを目指す

2. 参加国

オーストラリア、バングラディッシュ、中国、インドネシア、日本、カザフスタン、韓国、マレーシア、モンゴル、フィリピン、タイ、ベトナムの全12か国

3. 経緯

原子力委員会が主催して開催してきた、近隣アジア諸国の原子力関係者が一同に会し、情報交換及び地域協力のあり方を議論する場であった「アジア地域原子力協力国際会議」を発展的に改組し、平成11年4月に「アジア原子力協力フォーラム」が発足した。

<原子力政策大綱における位置づけ（アジア諸国との協力部分）>

我が国が主体的・能動的に協力を行う国・地域は、地政学的にも経済的にも緊密な関係を有するアジアを中心とする。(略) これらの協力に当たっては、相手国の自主性を重んじ、パートナーシップに基づくことを基本として、例えばアジア原子力協力フォーラム(FNCA)、IAEAのアジア原子力地域協力協定(RCA)といった多国間の枠組みや、二国間及び国際機関を通じた枠組みを目的に応じて効果的に利用することが適切である。

(参考)「アジア地域原子力協力国際会議」は平成2年、アジア地域での放射線利用や研究炉での利用の推進に貢献するために、日本主導で設立された。平成10年、これまでの協力活動全体を総括し、内外との連絡・調整を行う「コーディネーター」を各国から選任し、その下で専門的見地から活動する「プロジェクトリーダー」を協力分野ごとに選任し、より組織的な協力活動を進めることのできるFNCA新体制に移行した。

4. 枠組み

① 大臣級会合

各国の原子力を所管する大臣級代表が出席して、原子力技術の平和利用に関する地域協力のための政策対話を行う。なお、大臣級会合を補佐するための上級行政官会合を付設。日本と参加国で交互に毎年1回開催。

(開催実績)

- 第1回大臣級会合：平成12年11月（タイ）大島科学技術庁長官出席
テーマ：「原子力利用の推進」、「原子力安全」、「地域原子力協力の推進」
- 第2回大臣級会合：平成13年11月（東京）尾身科学技術政策担当大臣出席
テーマ：「持続可能な発展と原子力」、「放射線利用分野における協力のあり方」
- 第3回大臣級会合：平成14年10月（韓国）細田科学技術政策担当大臣出席
テーマ：「人材養成戦略」、「持続可能発展と原子力」
- 第4回大臣級会合：平成15年12月（沖縄）茂木科学技術政策担当大臣出席
テーマ：「放射線・ラジオアイソトープ利用の社会・経済的効果の増大」
「持続可能な発展と原子力エネルギー」
- 第5回大臣級会合：平成16年12月（ベトナム）棚橋科学技術政策担当大臣出席
テーマ：「アジアにおける原子力人材育成に関する協力」、「FNCAの今後のあり方」
- 第6回大臣級会合：平成17年12月（東京）松田科学技術政策担当大臣出席
テーマ：「アジアにおける原子力人材育成に関する協力」、「科学技術と原子力」
- 第7回大臣級会合：平成18年11月（マレーシア）平沢内閣府副大臣出席
テーマ：「アジアの持続的発展における原子力エネルギーの役割」
「原子力エネルギーの広報」
- 第8回大臣級会合：平成19年12月（東京）岸田科学技術政策担当大臣出席
テーマ：「原子力エネルギーの平和利用への取組みとFNCA活動」
「放射線利用を中心としたFNCA活動」
- 第9回大臣級会合：平成20年11月（フィリピン）増原内閣府副大臣出席
テーマ：「原子力発電の基盤整備のための協力」
「放射線利用のさらなる促進のための協力」
- 第10回大臣級会合：平成21年12月（東京）菅科学技術政策担当大臣出席
テーマ：「原子力エネルギー利用促進のためのさらなる協力」
「放射線・アイソトープ応用促進のためのさらなる協力」
- 第11回大臣級会合：平成22年11月（中国）和田内閣府大臣政務官出席
テーマ：「原子力エネルギー利用促進のためのさらなる協力」
「放射線・アイソトープ応用促進のためのさらなる協力」
- 第12回は日本がホスト予定

② 「検討パネル」

平成16年から平成18年の3ヵ年間「アジアの持続的発展における原子力エネルギーの役割」検討パネル（第1フェーズ）を開催し、アジア地域における長期的な環境問題への対応やエネルギー資源の確保の面から原子力エネルギーの役割を評価しました。

その結果を受け、第2フェーズとして平成19年から平成20年の2ヵ年間「アジアの原子力発電分野における協力に関する検討パネル」を開催し、1) 原子力発電分野における人材養成、2) 原子力発電にかかわる安全確保のための基盤整備につ

いて議論を行なった。平成20年11月にマニラで開催された第9回FNCA大臣級会合では、第3フェーズとして平成21年から3カ年間「原子力発電のための基盤整備に向けた取組に関する検討パネル」を開催することが決定されました。

(開催実績)

■第1フェーズ

「アジアの持続的発展における原子力エネルギーの役割検討パネル」

- 第1回 パネル会合 平成16年10月 東京
- 第2回 パネル会合 平成18年1月 東京
- 第3回 パネル会合 平成18年11月 敦賀

■第2フェーズ

「アジアの原子力発電分野における協力に関する検討パネル」

- 第1回 パネル会合 平成19年10月 東京
テーマ：原子力発電分野における人材養成
議長：杉本 純
(独)日本原子力研究開発機構(JAEA)原子力研修センター長
- 第2回 パネル会合 平成20年9月 東京
テーマ：原子力発電にかかわる安全確保のための基盤整備について
議長：早田 邦久
原子力安全委員会委員

■第3フェーズ

「原子力発電のための基盤整備に向けた取組に関する検討パネル」

- 第1回 パネル会合 平成21年7月30日、31日 東京
議長：伊藤 隆彦 原子力委員会委員、中部電力株式会社顧問
- 第2回 パネル会合 平成22年7月1日、2日 韓国
共同議長：尾本 彰 原子力委員会委員
Mr. SHIN Jae Sik (シン・ゼシク) 韓国教育科学技術部(MEST)原子力局 原子力協力課長
- 第3回 パネル会合 平成23年7月5日、6日 インドネシア(開催予定)
共同議長：尾本 彰 原子力委員会委員
Dr. Taswanda TARYO (タスワンダ・タリヨ) インドネシア原子力庁(BATAN)次官(研究開発研究成果利用・原子力科学技術広報担当)

※パネルは4年目以降も継続することを前提とし、3年目の会合において議論の対象範囲と内容を改めて検討することとしています。

③ コーディネーターとコーディネーター会合

自国におけるFNCAプロジェクトの実施に責任を持つとともに、協力活動全体を総括して参加国相互の連絡調整を行う役割を持つコーディネーターが各国から1名選任されている。プロジェクトの実施状況を評価・レビューするとともに、全体計画を討議するため、コーディネーター会合を年1回日本で開催。日本のコーディネーターは町末男文部科学省参与。

(開催実績)

| | | | |
|-------|------------|---------|---------|
| ○第 1回 | コーディネーター会合 | 平成12年3月 | 東京 |
| ○第 2回 | コーディネーター会合 | 平成13年3月 | 東京 |
| ○第 3回 | コーディネーター会合 | 平成14年3月 | 東京 |
| ○第 4回 | コーディネーター会合 | 平成15年3月 | 沖縄 |
| ○第 5回 | コーディネーター会合 | 平成16年3月 | 東京 |
| ○第 6回 | コーディネーター会合 | 平成17年3月 | 東京 |
| ○第 7回 | コーディネーター会合 | 平成18年3月 | 東京 |
| ○第 8回 | コーディネーター会合 | 平成19年2月 | 東京 |
| ○第 9回 | コーディネーター会合 | 平成20年3月 | 東京 |
| ○第10回 | コーディネーター会合 | 平成21年3月 | 東京 |
| ○第11回 | コーディネーター会合 | 平成22年3月 | 東京 |
| ○第12回 | コーディネーター会合 | 平成23年3月 | 福井 (中止) |

④ 個別プロジェクトについての協力活動

F N C Aは、放射線利用開発 産業利用・研究利用、放射線利用開発 健康利用、研究炉利用、原子力安全強化、原子力基盤強化、の5つの分野で10のプロジェクトを展開している。プロジェクト毎に各国1名のプロジェクトリーダーが任命されている。各参加国のプロジェクトリーダーは、自国におけるプロジェクト活動を実施していく責任を有する。プロジェクト毎に、通常年1回のワークショップ等を開催し、それぞれの国の進捗状況と成果を発表・討議して、次期実施計画を策定する。

アジア原子力協力フォーラム(FNCA)の枠組み

